

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 7 年 8 月調査結果 - -

( 平成 1 7 年 9 月 2 日 )

調査期間：平成 1 7 年 8 月 2 2 日 ~ 2 6 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 7 8 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 8 製造業 6 2 3 卸売業 2 3 2  
小売業 7 3 7 サービス業 6 0 8

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成17年8月調査結果のポイント】

### 業況D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小するも、依然、不透明感続く

8月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 32.4 ）よりマイナス幅が3.5ポイント縮小して 28.9となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

業種別の業況D Iは、全業種でマイナス幅が縮小した。業況好調、売上増加という声の一方、依然として公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感、先行き不透明感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「民間工事では、個人住宅の需要が高く、好調を保っている」（一般工事）との声がある一方、「資材の仕入コストが上昇しているため、売上高が伸びても採算は好転しない」（土木工事）、「公共工事・民間工事ともに需要が少なく業況は厳しい。企業の設備投資の動きも鈍い」（一般工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「工作機械、自動車関連部品の受注量が増加し、受注価格も値上げを実施したため、採算が少し好転した」（非鉄素形材製造）との声がある一方、「売上は前年に比べ増加しているものの、仕入コスト上昇分を販売価格に転嫁できないため、収益は悪化している」（計量・測定器製造）、「依然として業況が回復しておらず、厳しい状況が続いており、従業員も過剰気味。仕入コストも上昇し、採算面でも厳しい状況」（金属加工機械製造）といった声が寄せられている。

【卸売業】では、「新たに取り扱いを始めた商品とプライベートブランド商品の売上が増加している」（各種商品卸売）との声がある一方、「新聞紙上で書かれているような景況感の改善は、残念ながら感じられない」（食料・飲料卸売）、「仕入コストの上昇が続いており、販売価格への転嫁も難しく、今後の資金繰りに悪影響を与えられる」（農畜産水産物卸売）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「業況はあまり変わらないものの、来店者数は少し上向いている印象がある」（その他の小売）との声がある一方、「都市部では個人消費が上向き傾向と言われているが、地方では相変わらず低迷している」（百貨店）、「消費者の財布の紐は固く、加えて仕入コスト上昇分を販売価格に転嫁できないため、採算が悪化している」（商店街）といった声が寄せられている。

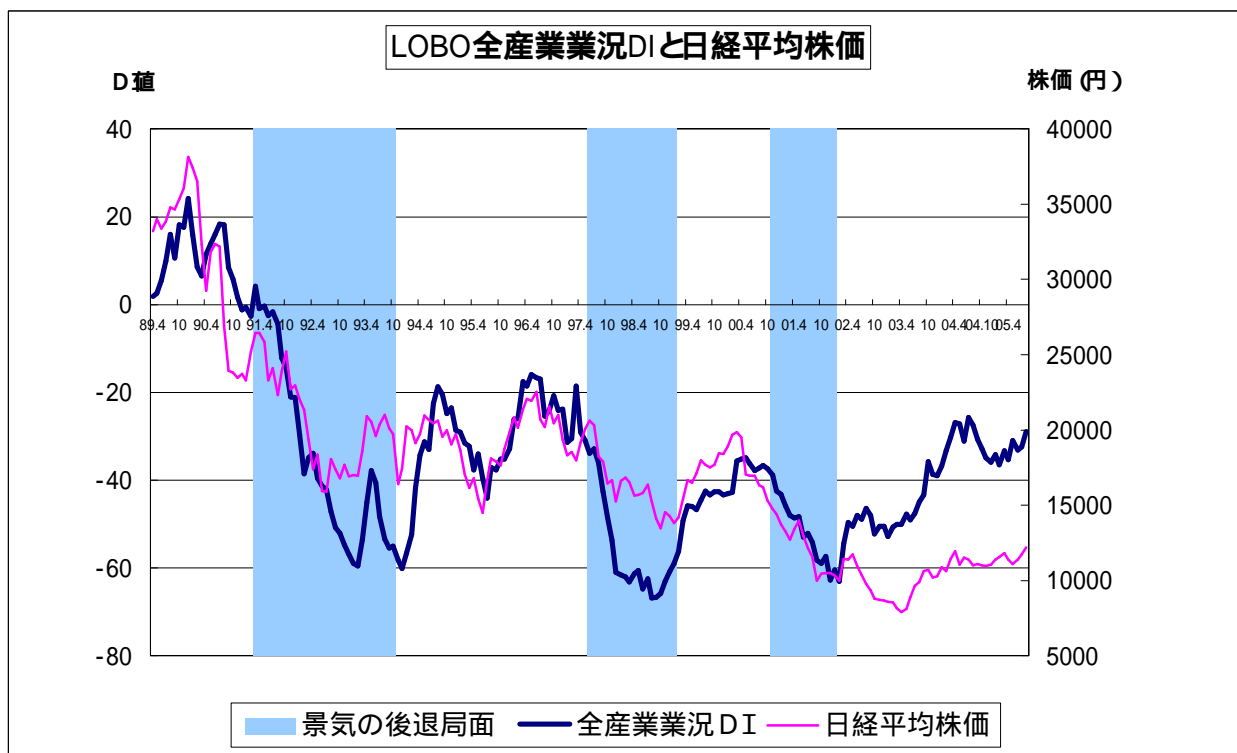
【サービス業】では、「全般的に回復の兆しを感じられるので、この流れを持続させて本当の回復にこぎつけたい」（食堂、レストラン）との声がある一方、「夏季観光シーズンであったが、業況は厳しい状態。海外旅行の一般化などレジャーの多様化により年々来客数が減少している」（旅館）、「天井の見えない軽油価格の暴騰が続いている」（運送業）といった声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は卸売を除く 4 業種で縮小したため、全産業合計の売上 D I は 2 . 9 ポイント縮小して 23 . 4 となり、4 カ月連続で縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は卸売を除く 4 業種で縮小したため、全産業合計の採算 D I は 2 . 1 ポイント縮小して 29 . 5 となり、2 カ月連続で縮小した。

向こう 3 カ月 (9 月 ~ 11 月) の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース) が 25 . 6 と、昨年同時期の先行き見通し ( 23 . 5 ) に比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加という声の一方、依然として公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感、先行き不透明感を訴えるコメントも多く見られた。



【業況についての判断】

8月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（32.4）よりマイナス幅が3.5ポイント縮小して28.9となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

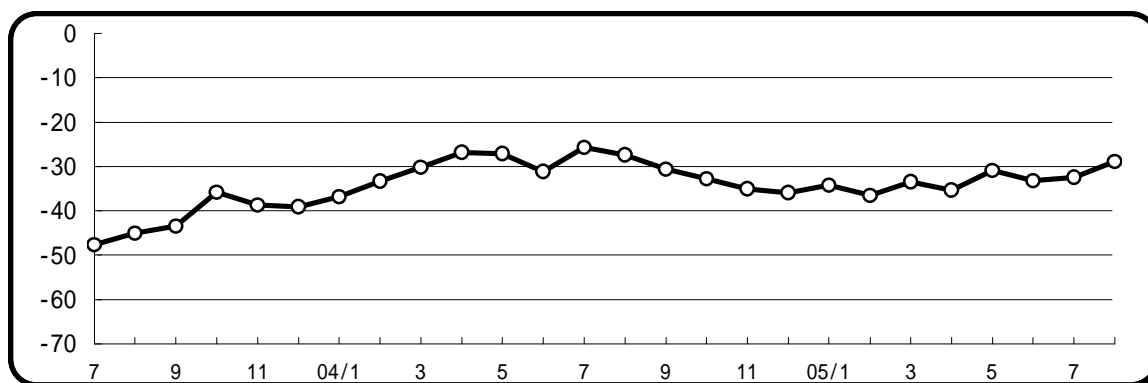
向こう3カ月（9月～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が25.6と、昨年同時期の先行き見通し（23.5）に比べて悪化している。

業況DI（前年同月比）の推移

	17年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	33.4	35.3	30.9	33.2	32.4	28.9	25.6 (23.5)
建設	42.9	46.0	42.2	44.7	43.2	37.9	36.6 (43.5)
製造	24.0	24.6	23.8	23.9	21.2	18.5	16.0 (13.3)
卸売	36.1	39.6	37.7	40.2	38.5	35.3	23.2 (22.4)
小売	34.0	37.8	31.0	30.8	33.9	31.2	26.1 (23.8)
サービス	35.5	35.1	28.7	35.2	33.1	29.0	29.2 (20.8)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年8月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

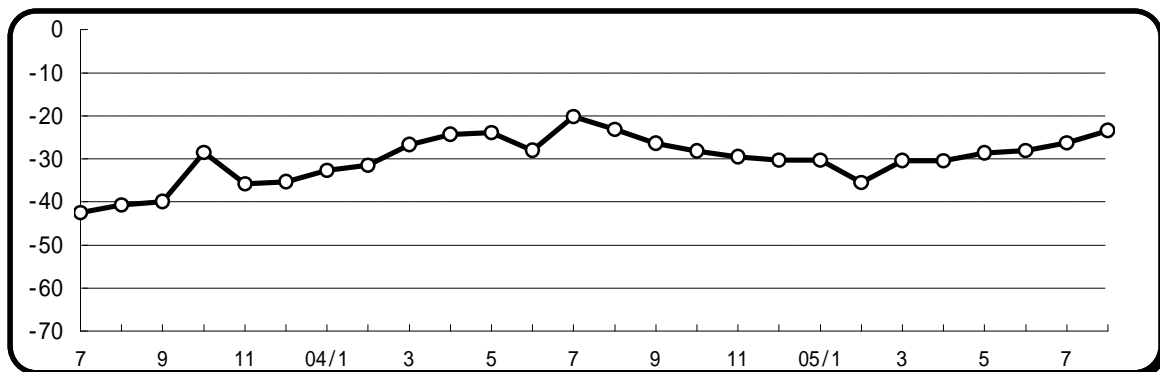
売上面では、D I 値のマイナス幅は卸売を除く4業種で縮小したため、全産業合計の売上D Iは2.9ポイント縮小して23.4となり、4カ月連続で縮小した。

向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が18.3と、昨年同時期の先行き見通し(20.8)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	30.4	30.5	28.6	28.1	26.3	23.4	18.3 (20.8)
建設	40.0	39.8	39.6	40.1	37.0	32.2	29.0 (34.7)
製造	10.0	13.2	13.7	10.3	9.6	9.3	9.3 (8.8)
卸売	36.7	38.4	38.4	39.9	36.7	37.1	18.5 (17.6)
小売	39.5	37.5	30.4	29.2	31.1	26.9	20.2 (27.7)
サービス	32.0	31.7	31.5	32.8	27.2	23.5	18.8 (16.7)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

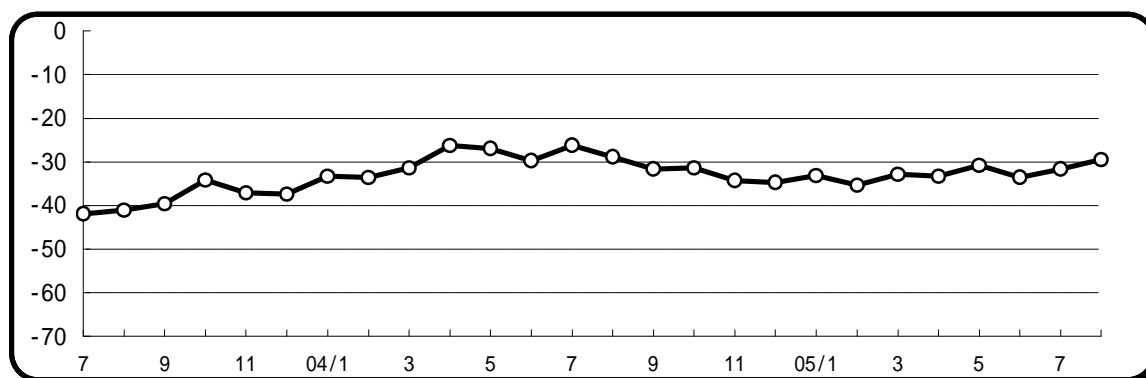
採算面では、D I 値のマイナス幅は卸売を除く4業種で縮小したため、全産業合計の採算D Iは2.1ポイント縮小して 29.5となり、2カ月連続で縮小した。

向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が 23.2と、昨年同時期の先行き見通し( 23.0 )に比べてわずかに悪化している。

採算D I (前年同月比) の推移

	17年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	32.9	33.3	30.8	33.5	31.6	29.5	23.2 ( 23.0)
建設	49.5	50.0	44.4	50.0	47.3	42.8	36.3 ( 43.2)
製造	24.7	27.1	25.2	27.1	27.5	24.6	18.7 ( 20.6)
卸売	24.7	30.5	30.2	32.9	29.6	30.6	19.6 ( 16.4)
小売	31.8	32.4	27.7	27.1	27.1	25.7	19.0 ( 19.8)
サービス	35.0	31.7	32.0	36.9	32.4	30.7	26.3 ( 18.4)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	25.0	23.6	21.8	22.4	20.7	19.2	16.9 ( 18.3)
建設	39.4	39.7	39.2	37.8	37.9	31.2	29.1 ( 36.4)
製造	19.7	20.0	16.8	16.8	17.8	17.7	15.1 ( 13.8)
卸売	21.3	19.9	17.7	16.5	19.6	13.3	8.7 ( 15.3)
小売	23.3	19.7	18.4	18.1	16.4	14.5	15.5 ( 14.4)
サービス	23.6	22.4	20.3	24.4	16.3	20.1	15.9 ( 16.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】サービスで悪化超感が強まったものの、他の4業種で弱まり、全産業合計でも2カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】製造、小売で昨年同時期に比べ悪化超感が強まったものの、他の3業種では弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	16.6	19.3	19.6	16.9	17.3	17.2	16.3 ( 13.4)
建設	25.3	26.4	32.0	25.5	27.3	23.3	25.4 ( 23.0)
製造	35.8	36.9	34.6	31.8	31.0	33.5	27.1 ( 25.3)
卸売	12.7	14.6	19.0	14.6	16.0	12.9	17.9 ( 7.9)
小売	1.0	5.6	5.9	3.9	5.1	4.8	7.1 ( 1.0)
サービス	10.8	14.2	12.5	12.1	11.6	12.6	9.3 ( 11.9)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造、サービスで上昇超感が強まったものの、他の3業種で弱まったため、全産業合計でも2カ月ぶりに若干弱まる。

【先行き見通しD I】サービスで昨年同時期に比べ上昇超感が弱まったものの、他の4業種で強まったため、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I ( 前年同月比 ) の推移

	17年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	6.6	6.8	5.0	5.2	4.4	3.7	3.5 ( 7.0)
建設	23.0	22.9	23.1	19.9	20.2	18.6	17.5 ( 20.6)
製造	7.7	8.3	5.3	4.3	3.5	5.8	2.3 ( 8.4)
卸売	8.2	9.8	8.8	12.8	5.3	3.6	5.5 ( 6.0)
小売	1.4	0.6	2.2	3.6	0.2	3.0	1.4 ( 1.5)
サービス	3.3	2.5	0.2	3.9	0.5	0.2	0.8 ( 3.1)

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

【前年同月比 D I】製造で過剰超感が強まったものの、他の4業種で弱まったため、全産業合計でも2カ月連続で弱まる。

【先行き見通し D I】全業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。



## 【平成17年8月の景気キーワード】

### 悪化への懸念

各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「公共・民間工事とも低水準で推移し、厳しい状況が続いている」（境港・建築工事）「顧客の海外生産強化と在庫調整により、受注環境が非常に厳しくなっている」（五泉・ニット・シャツ製造）「踊り場脱却宣言が出されたが、中小企業にとってその実感は乏しく、依然厳しい状況に置かれている」（千葉・一般産業用機械製造）との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「他の地域から商品を仕入れるスーパーが進出した影響を受け、地元製品の売上が減少、今後も期待できない」（川之江・食料・飲料卸売）「今夏も消費に盛り上がりが見られず、夏物バーゲンも低調。依然として個人消費に活気が見られない」（恵那・その他の小売）「夏休み期間中で客数は増加するも、客単価が低く、全体的に厳しい状況」（久留米・他の一般飲食店）と、厳しい業況を訴えるコメントが寄せられている。

### 回復への動き

一方で、各業種から、業況好調、売上増加、先行きに期待する声も寄せられており、「土木関連の公共工事を受注した」（静岡・一般工事）「中国以外に東南アジア、中近東向けの輸出が増えてきたことが明るい材料となっている」（大阪・繊維機械製造）「採算は厳しい状況から抜け切れていないものの、全体的に工場の稼働率は安定しており、一定の活力維持が見込まれる」（新居浜・一般産業用機械製造）「秋の行楽シーズンにおける売上増加に期待」（藤枝・食料・飲料卸売）といったコメントが寄せられている。また、「来店者数は前年を下回ったものの、秋物衣料品の販売好調により、売上高は前年を上回った」（柏・商店街）「今月は夏休みやお盆休みがあり、売上は堅調だった」（赤穂・百貨店）「お盆の帰省客が来店し、売上が前年並みに近づいてきた」（会津喜多方・理容）「お盆前後は帰省客などで地域の人口が増え、どこの飲食店も多忙」（鹿屋・料亭）との声も寄せられている。

### 仕入コスト上昇

仕入コストの上昇を訴えるコメントも多く寄せられている。建設、製造からは、「材料費の値上げ等厳しい状況が続いている」（鎌倉・塗装工事）「生産販売量が上昇傾向にあるが、原材料と諸費用の高騰分を販売価格に転嫁できない状況が続いている」（燕・金物類製造）「7月に、今年に入り5度目の原材料仕入価格の値上げがあり、4月以降に実施した販売価格への転嫁の効果も薄れるだろう」（岐阜・他のプラスチック製造）「原材料高の影響で、販売価格の値上げを発表、もしくは検討している企業がある一方、いまだ転嫁できていない企業もある」（神戸・タイヤ・チューブ製造）という声が寄せられている。また、サービス業からは「軽油が8月に1リットルあたり3円から4円値上がりし、採算を悪化させている」（石岡・その他サービス）「依然として原油価格高騰による影響を整備料金に転嫁できず、厳しい状況が続いている」（帯広・自動車整備）というコメントも寄せられている。

### 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
17年	6月	悪化への懸念	回復への動き	
	7月	悪化への懸念	回復への動き	仕入コスト上昇
	8月	悪化への懸念	回復への動き	仕入コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iともに2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「民間工事では、個人住宅の需要が高く、好調を保っている」(一般工事)、「今月は、市から大規模な工事を受注したため、売上が増加」(一般工事)との声がある一方、「住宅着工戸数も減少気味であり、9月以降の動向が心配である」(建築工事)、「資材の仕入コストが上昇しているため、売上高が伸びても採算は好転しない」(土木工事)、「公共工事・民間工事ともに需要が少なく業況は厳しい。企業の設備投資の動きも鈍い」(一般工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iで2カ月連続、売上D Iは3カ月連続、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「デジタル家電の需要は堅調な推移を示しており、増産すべく設備投資を実施」(電子部品製造)、「工作機械、自動車関連部品の受注量が増加し、受注価格も値上げを実施したため、採算が少し好転した」(非鉄素形材製造)との声がある一方、「国内需要の低迷と海外からの安価な製品の流入などにより、依然厳しい状況が続いている」(家具製造)、「売上は前年に比べ増加しているものの、仕入コスト上昇分を販売価格に転嫁できないため、収益は悪化している」(計量・測定器製造)、「依然として業況が回復しておらず、厳しい状況が続いており、従業員も過剰気味。仕入コストも上昇し、採算面でも厳しい状況」(金属加工機械製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上・採算D Iは2カ月ぶりに拡大した。「波はあるものの、売上は増加傾向で安定している」(農畜産水産物卸売)、「新たに取り扱いを始めた商品とプライベートブランド商品の売上が増加している」(各種商品卸売)との声がある一方、「新聞紙上で書かれているような景況感の改善は、残念ながら感じられない」(食料・飲料卸売)、「仕入コストの上昇が続いており、販売価格への転嫁も難しく、今後の資金繰りに悪影響を与えられる」(農畜産水産物卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D Iともに2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「業況はあまり変わらないものの、来店者数は少し上向いている印象がある」(その他の小売)、「来店者数は依然減少しているものの、若者向け衣料品を中心に売上が前年を上回っている」(商店街)との声がある一方、「都市部では個人消費が上向き傾向と言われているが、地方では相変わらず低迷している」(百貨店)、「夏休み・お盆で来店者数は微増も、客単価は低く消費者の財布の紐は固い」(百貨店)、「消費者の財布の紐は固く、加えて仕入コスト上昇分を販売価格に転嫁できないため、採算が悪化している」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D Iともに2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「全般的に回復の兆しを感じられるので、この流れを持続させて本当の回復にこぎつけたい」(食堂、レストラン)、「夏休み、お盆休みもあり、来店者数は増加した」(喫茶店)との声がある一方、「8月は例年通りビジネス客が少なく、稼働率は低い状況が続いた」(旅館)、「夏季観光シーズンであったが、業況は厳しい状況。海外旅行の一般化などレジャーの多様化により年々来客数が減少している」(旅館)、「天井の見えない軽油価格の暴騰が続いている」(運送業)、「個人タクシー業界の景況は次第に悪化しており、廃業者が予想以上に多く出ている」(他事業サービス)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、北陸信越でマイナス幅が拡大したが、他の7ブロックで縮小したため、全ブロック合計でも2カ月連続で縮小した。

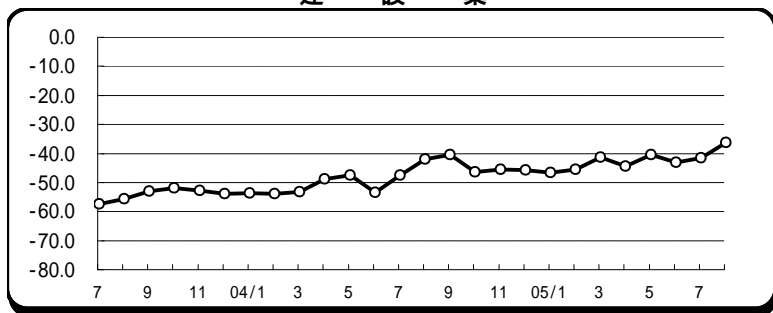
ブロック別の向こう3カ月(9月~11月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、東北、関東、近畿、九州で縮小したものの、他の5ブロックで悪化したため、全ブロック合計でも悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

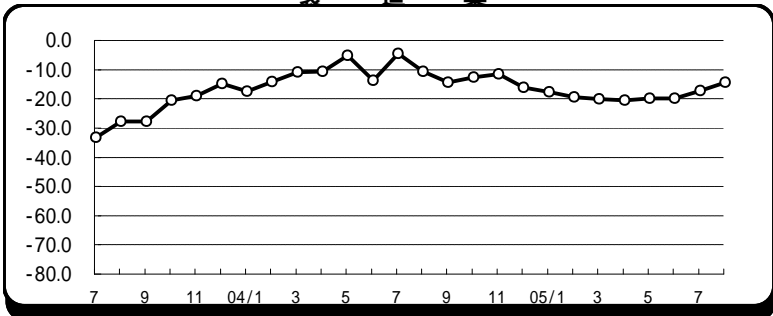
	17年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全 国	33.4	35.3	30.9	33.2	32.4	28.9	25.6 ( 23.5)
北海道	27.9	35.7	36.4	32.4	31.4	32.3	32.3 ( 20.2)
東 北	38.3	42.9	37.7	32.7	37.1	30.7	31.4 ( 33.1)
北陸信越	39.5	28.2	27.6	36.9	25.1	26.2	25.0 ( 19.9)
関 東	29.4	36.0	32.8	33.8	29.5	29.0	17.7 ( 18.9)
東 海	25.9	29.7	20.1	26.1	30.2	23.8	26.5 ( 19.2)
近 畿	38.1	38.6	36.0	35.8	40.7	31.7	29.5 ( 30.3)
中 国	36.2	28.9	32.9	30.3	32.9	29.2	29.2 ( 24.6)
四 国	34.7	37.5	25.9	40.8	37.4	33.8	32.6 ( 23.9)
九 州	34.3	37.5	27.0	28.9	29.4	24.4	20.7 ( 24.1)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

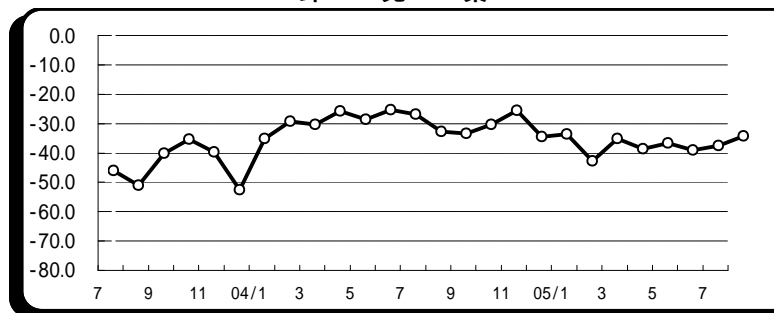
## 建設業



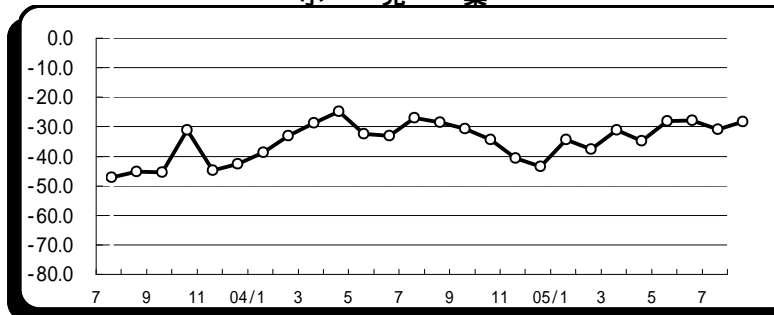
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

